

平成 22 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会  
議事概要

◆日時：平成 23 年 3 月 3 日（水）13:00～16:00

◆場所：奈良県 橿原観光ホテル「カトレア」

◆出席者

<委員等>

|        |                      |
|--------|----------------------|
| 川瀬 浩   | 日本野鳥の会奈良 代表          |
| 佐久間 大輔 | 大阪市立自然史博物館 学芸員       |
| 高田 研一  | 高田森林緑地研究所 所長         |
| 田村 義彦  | 大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長    |
| 鳥居 春己  | 奈良教育大学 教授            |
| 長嶋 俊介  | 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 教授 |
| 日比 伸子  | 橿原市昆虫館 資料学芸係長        |
| 前田 喜四雄 | 元奈良教育大学 教授           |
| 増田 昇   | 大阪府立大学大学院 教授         |
| 松井 淳   | 奈良教育大学 教授            |
| 村上 興正  | 元京都大学 講師             |
| 横田 岳人  | 龍谷大学 准教授             |

<関係機関>

|                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 国土交通省近畿運輸局奈良運輸支局      | 土本 美和子 運輸企画専門官 |
| 林野庁近畿中国森林管理局計画部計画課    | 倉石 博 森林施業調整官   |
| 奈良県くらし創造部景観環境局自然環境課   | 辻 和明 課長補佐      |
| 上北山村建設産業課             | 森ノ内 圭治 主事      |
| 川上村地域振興課              | 辰巳 龍三 主任       |
| 吉野きたやま森林組合            | 森岡 哲也 参事       |
| 上北山商工会                | 中谷 守孝 会長       |
| 奈良県猟友会上北山支部           | 福西 貢 支部長       |
| 三重県猟友会                | 山本 一男 副会長      |
| 奈良交通（株）自動車事業本部乗合バス事業部 | 西田 真一 課長       |

<事務局>

|        |                     |               |
|--------|---------------------|---------------|
| 池田 善一  | 近畿地方環境事務所           | 所長            |
| 佐々木 仁  | 近畿地方環境事務所           | 統括自然保護企画官     |
| 杉田 高行  | 近畿地方環境事務所           | 国立公園・保全整備課長   |
| 上村 邦雄  | 近畿地方環境事務所           | 野生生物課長        |
| 小林 達哉  | 近畿地方環境事務所           | 国立公園・保全整備課長補佐 |
| 高橋 誠   | 近畿地方環境事務所           | 公園計画専門官       |
| 櫻又 涼子  | 近畿地方環境事務所           | 自然保護官         |
| 齊藤 誠子  | 近畿地方環境事務所           | 自然保護官         |
| 岸田 春香  | 近畿地方環境事務所           | 係員            |
| 濱名 功太郎 | 近畿地方環境事務所吉野自然保護官事務所 | 自然保護官         |
| 永津 雅人  | (財) 自然環境研究センター      |               |
| 荒木 良太  | (財) 自然環境研究センター      |               |
| 岸本 年郎  | (財) 自然環境研究センター      |               |
| 樋口 高志  | (株) 環境総合テクノス        |               |
| 保延 香代  | (株) 環境総合テクノス        |               |
| 藤井 雅雄  | 写測エンジニアリング (株)      |               |
| 宮口 恒樹  | 写測エンジニアリング (株)      |               |
| 野間 純   | 写測エンジニアリング (株)      |               |

## 1. 森林生態系保全再生について

- ・今年度新たに実施した項目の中で、①大規模ササ刈り試験、②植栽試験の2点については特に重要で注目して経緯を見守りたい。
- ・防鹿柵について、「多様性防鹿柵」、「小規模防鹿柵」、「パッチディフェンス」等様々な言葉が出てくるのでわかりにくい。それぞれの定義を整理するべき。
- ・食材性昆虫類調査における、前回と比較しての個体数の減少については、年次変動なのか環境変化による減少なのかが不明であり、今後注目すべき。また、柵内・柵外の違いについても今後精査が必要である。
- ・地域特性把握調査の昆虫類で興味深いことがわかってきた。特にハバチ類について調査不足であるものの、幼虫が針葉樹を食べる種に希少なものが多く、今後の調査が期待される。また、昆虫類については定量化は難しいが、ストーリーとしては説明をすることが可能である。
- ・食材性昆虫の調査で用いられている、誘引剤の誘引効果の範囲はどれくらいであるのか？柵内外の比較は可能であるのか？  
→野外調査では、いろいろな条件が重なってくるので一概には言えないが、柵内外の比較は可能であると考える。
- ・昆虫調査が市民を含めた体制で実施されているのは有意義である。
- ・区域保全対策では、ミヤコザサの繁茂を考慮し、森林後退の場所に着目して選定を行った。蘚苔類への影響を考慮して剥皮防止ネットを非金属性にしたことは環境保全の観点から評価できる。
- ・西大台利用調整のモニタリングデータの評価に関連して、部会と協議会との開催時期については部会を先に開催するべき。部会の開催回数が予算の関係で少なくなっているが検討の余地があれば改善してもらいたい。
- ・西大台利用調整のモニタリングの防鹿柵設置については、植物の成長に重要な光環境についても併せてデータを取っておくべき。

## 2. ニホンジカ個体群保護管理について

- ・資料が簡略化されすぎていて、一般の方には理解できないだろう。参考資料にある要点もまとめて追加してもらいたい。
- ・捕獲目標頭数は62頭ということだが、これが達成された際には、さらなる捕獲ができるよう準備しておくべき。早期に多く捕獲したほうが結果的に少ない個体数の捕獲で済むので、このことはたいへん重要である。
- ・関係機関との連携は特に重要である。大台ヶ原の山上だけでの対策ではなく、周辺地域での対策が進むことにも期待するとともに、大台ヶ原・大杉谷ニホンジカ保護管理連絡会議には積極的に情報提供をしてもらいたい。

### 3. 新しい利用の在り方推進について

#### (西大台利用調整地区関連)

- ・今年度の調査ではツアー利用者が4割を超えているという結果が出ていて注目される。  
質の高い利用のためにも、十分に実態を把握しフォローアップするべき。
- ・利用集中期が延長され6月19日までで、梅雨の時期も入るので、その際には特に植生への配慮について事前レクチャーをしっかりと願います。
- ・施設整備については原生的自然の保全に十分配慮してワーキンググループ等で現場をしっかりと把握したうえで実施してもらいたい。
- ・ガイド育成の取組としてテキストの準備が進んでいるが、その勉強会も実施してもらいたい。
- ・地元の小中学校の子供たちに大台ヶ原を体験してもらうような方策を検討すべき。
- ・防鹿柵内についても見てもらい、自然再生の成果を理解できるツアー等も検討してもらいたい。
- ・立入り可能人数の10名というのは誤解を生じるので、何を団体と考えるのかについて広報や書きかたについて検討が必要。